

ベンダー、ニーズ創出がカギ

NTTデータ経営研究所
情報未来研究センター マネージャー

神田 武氏

今日の人工知能（AI）・機械学習の技術革新を主導するのは、大手インターネット企業である。彼らは自社サービスの改善のために、常時ビッグデータの集積と機械学習の改良をする。競争力強化へ企業買収や人材獲得競争を繰り広げ、高度なAI人材の囲いこみを進めてきた。

一方、他社のためにAI技術やソリューションを提供するAIベンダーも多く存在する。AIベンダーは提供価値の観点から①業界特化型②業務特化型③システムインテグレーター——に大別できる。



業界特化型AIベンダーは金融や医療、農業といった特定業界にAIソリューションを提供する。米ベンチャーのエンリティックは医療業界に特化した画像診断サービスを用意する。身体をスキャンし、がん細胞

AIベンダーの種類

業界特化型AI

特定の業界にAIを利用したソリューションを提供
【医療】 画像診断、問診の支援、患者の健康管理
【金融】 窓口業務、商品紹介、資産運用、コールセンター
【交通】 自動運転、交通予測、物流管理
【小売り】 需要予測、顧客への商品推薦…

業務特化型AI

企業などの個別業務支援のためAIソリューションを提供
【研究・開発】 研究不正の検知、設計・開発の支援
【マーケティング】 顧客分析、需要予測、印象調査
【バックオフィス】 秘書、人事、経理、法務、バックオフィス

システムインテグレーター

複数のAIソリューションを組み合わせシステムとして提供
【代表企業】 米IBM（ワトソン部門）、日立製作所、NEC、富士通

を検知する技術を持つ。医師よりも高い確率で検知できるという。

業務特化型AIベンダーは人事や経理などの業務を支援するAIを提供する。米ベンチャーのX. aiが開発したバーチャルアシスタントは、スケジュール調整のために顧客とのメールのやり取りを代行してくれる。ビジネスパーソンの業務の一部を代行するサービスといえる。

システムインテグレーターは複数のAI技術を組み合わせ、顧客のためにシステムを構築する。有名な米

IBMのワトソンは自然言語処理や機械学習、質問応答などを組み合わせた統合型プラットフォームである。IBMは金融機関や医療向けにシステムを構築するほか、産業用の解析ソリューションも提供する。



収益化に成功する多くのAIベンダーは、新規の技術革新よりも既存技術を微修正して新たな顧客ニーズをつくりだすことを得意とする。サービス開発が決め手となる。